

[出展]「兵庫2030年の展望」(兵庫県, 2018) 他

プラン策定方針

1 策定の趣旨・位置づけ

◆「兵庫2030年の展望」がめざす「すこやか兵庫」の実現に向けたICTとデータの利活用指針

○兵庫の2030年の展望「基本方針」

- ・「未来の活力」の創出 ～人口が減っても活力が持続する兵庫～
・「暮らしの質」の追求 ～豊かな生活ができる兵庫～
・「ダイナミックな交流・環流」の拡大 ～活躍の舞台が広がる兵庫～

◆産・学・官・民がICTとデータの利活用についての方向性を共有するためのビジョン

◆「官民データ活用推進基本法」に基づく県の官民データ活用推進計画

3 基本理念 ～ 攻めのICT利活用 ～

○2030年に向けた環境変化

- ・進行する人口減少と少子高齢化
・多様化する働き方
・到来する大交流時代
・高まる災害リスクと持続可能な環境づくり

○浸透する革新技术～ ICTとデータの潮流～

- ・急速な高速化・モバイル化・多様化ービッグデータの蓄積
・ICTの多様な機能と特性～つなぐ・こえる・みせる・かわる・つくる～
・ICT利活用の場面～あらゆる行動プロセス・社会システムで～
・データ利活用の効果～イノベーションの創出と社会システムの変革～

“攻めのICT利活用”

◆効率化から高付加価値化

- ・業務効率化や情報発信に加え、「経営戦略」「施策立案」「生産」「営業」「サービス提供」において、積極的にICT・データを利活用～高付加価値化
・ICTができることはICTに、ヒトは、ヒトにしかできない創造的・対人的能力を活かす

◆データの集積・循環・利活用

- ・散在する多様なデータを集積・循環
・複数のデータをクロス分析・加工し利活用

◆AI・IoTなど先端ICTの積極的導入

- ・あらゆる分野・場面において、データ利活用の基盤となる、多種多様なICTを積極的に導入

◆兵庫の強みを活かす

- ・高水準の科学技術基盤(スパコン京、高度研究機関)の活用
・五国の豊かな地域特性に応じた取組推進

基本方針

I 未来を創る ～イノベーションの創出～

◆“新たな価値”の創出

- ・「すこやか兵庫」を実現するため、県民・事業者・行政のあらゆる活動において、ICT・データを利活用して、“新たな価値”を生み出すイノベーションを創出
・健康・医療データの集積による、新たな創薬・保険サービスの創出など、データの集積・多面的な活用、最先端ICTにより新事業・新サービスを創出
・自動運転バスやドローンによる物流の実現など、IoTやネットワーク活用による快適で便利な生活スタイルへの変革を推進

◆ICT・データは“手段” 利活用するヒトの“知”を集積

- ・県立大学等において、地域で育ち・地域で活躍する「新技術の開発力」、「データを利活用して課題解決する応用力」を有する高度ICT人材を育成し、デジタル社会を先導
・IT業界のカリスマ起業家の誘致など、高度ICT人材の集積と連携の推進による“組織の利活用力”の向上など、“知の集積”を促進

(1)新事業・新サービスの創出

(2)生活スタイルの変革

(3)デジタル社会を先導する知の集積

II 活力を高める ～パフォーマンスの向上～

◆モノ・サービスのクオリティを高める

- ・モノやサービスの提供過程において、ICT・データを利活用することで、モノ・サービスの価値が高まり、担い手不足や交流促進等の課題解決にも寄与
・工場・農業生産工程の自動化、SNSを活用した情報発信など、プロモーションのデジタル化により、事業展開におけるクオリティを向上

◆広大な県土のどこでも県民が高水準なサービスを楽しむ

- ・データ利活用によりサービスレベルを向上し、広大な県土のどこでも県民が等しくサービスを楽しむことができる遠隔医療・遠隔授業の実施など、利用者のユーティリティを向上

(1)事業展開におけるクオリティの向上

(2)サービス利用者のユーティリティの向上

III デジタル社会を支える ～基盤の強化～

◆誰もが、安全・安心にICT・データの便益を享受する基盤を整備

- ・ICT・データの利活用を促進するうえで、誰もが等しくその便益を享受できる基盤整備と安全安心な環境整備が不可欠
・誰もがICTを使いこなすため、学校教育や職業教育等において、ライフステージに応じた利活用能力の育成を行うとともに、どこでも通信できるネットワーク環境の整備など、デジタルデバイドの解消を推進
・サイバー攻撃やICTを取り巻くトラブル等の課題に対応するため、セキュリティ強化や青少年へのICTモラル啓発など、安全安心なICT環境を整備

(1)デジタルデバイドの解消

(2)安全安心なICT環境の整備

IV スマート自治体をめざす ～デジタル行政の推進～

◆限られた人的資源で質の高い行政運営を実現

- ・行財政の改革を進める中で、業務効率化を進めつつ、組織規模を縮小一方、行政ニーズは多様化・複雑化し、自治体のスマート化が不可欠
・行政手続のオンライン化やAI・RPAの活用など業務プロセスの見直し、システムのクラウド化など情報システムの改革を推進
・職員は、ヒトにしかできない創造的・対人的活動に注力

(1)BPR～業務プロセスの見直し～の推進

(2)情報システムの改革

【現状・背景】

- 人口減少
・総人口 559万人 → 507万人 [2010→2030]
○産業活力
・実質GDP成長率 全国 1.6% 兵庫県 0.9% [2017]
・生産年齢人口 328万人 → 292万人 [2015→2030]
○少子高齢化
・出生数 48,541人 → 42,198人 [2010→2017]
・高齢者人口 1,482千人 → 1,587千人 [2015→2030]
○コミュニティの変容
・小規模集落 221集落 → 502集落 [2007→2016]
○街の基盤
・県管理社会基盤施設 多くが築50年迎える
・地方バス利用者 620万人 → 468万人 [2005→2019]
○AI・IoT・ビッグデータ活用の課題 (兵庫県企業アンケート)
「活用のイメージわからない」 51.2%
「人材不足」 48.3%
○地方公共団体に求める役割 (H29通信利用動向調査:総務省)
第2位:人材育成・確保 27.7%

【現状・背景】

- 地方公共団体に求める役割 (H29通信利用動向調査:総務省)
第4位:利用者保護の充実、情報リテラシーの向上 25.2%
○サイバー犯罪相談 770件 → 2,489件 [2014→2018]
○消費生活相談 ICT関連の苦情が上位
○青少年のトラブル・問題行動 ネット上のトラブル経験:高校生17.7% 成績低下:依存傾向者30.1%

【現状・背景】

- 職員数(一般行政部門) 8,279人 → 5,795人 [2007→2018]
○地方公共団体に求める役割 (H29通信利用動向調査:総務省)
第1位:行政手続等オンライン化 44.3%

推進体制

産・学・官・民の“共創” ～県が全体をファシリテートする仕組みの構築～

◆総合窓口の設置:課題・技術・データのニーズの集約

- ・①解決したい課題、②活用できる技術、③活用したいデータの提案を集約する総合窓口を設置

◆産・学・官・民が集結する“対話の場”でマッチング

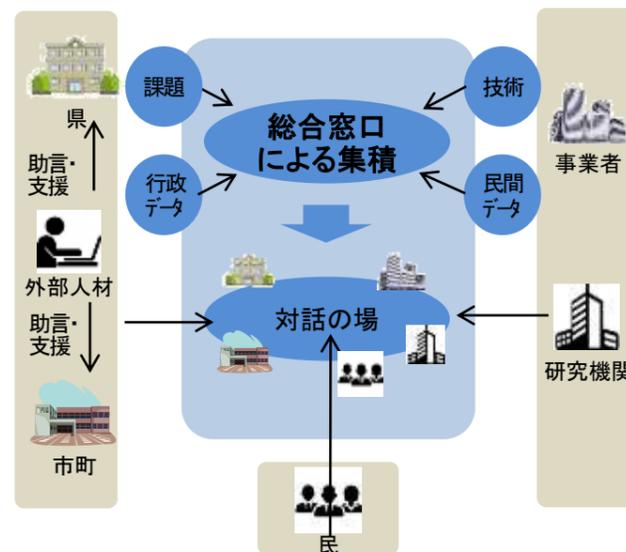
- ・産・学・官・民がオープンに対話する場を通じ、事業化に向けた課題・技術・データのマッチング

◆行政における外部人材の活用

- ・行政の事業化に、外部人材を積極的に活用
例) アドバイス(全体的な推進方策、各課題に最適な技術)
実務支援(システム設計、プロトタイプ開発)

◆県と市町の協働・市町間の横展開

- ・県と市町でのデータ・システムの共有の推進
・県の取組事例の市町への普及
・市町の取組事例の他市町への横展開



攻めのICT利活用

基盤づくり

基本方針

【取組の方向性】

【主な県の取組】

I 未来を創る ～イノベーションの創出～

(1)新事業・新サービスの創出

兵庫の未来を創る新事業・新サービスを創出するため、多様なデータを集積し多面的に利活用するとともに、最先端ICTの積極的な利活用を促進

①データ集積と多面的活用による価値創造

・高精度な3次元空間データ等の集積による多面的活用

・パーソナル・ヘルス・データ等の集積による健康寿命延伸

・パブリックデータ・産業データ・パーソナルデータの循環・利活用促進

②最先端ICTを利活用した新事業創出

・スーパーコンピュータを活用した次世代産業の育成

・新規事業開発のためのICT導入促進

(2)生活スタイルの変革

快適で便利な新たな社会システムを構築するため、IoT・ネットワークを利活用した生活基盤の構築やボーダーレスな新システムの普及を促進

①IoTによる新たな生活基盤構築

・自動運転バスの導入、ドローンによる物流システム実現 キャッシュレス決済推進

②ネットワークによるボーダーレスな新システムの普及

・テレワーク・クラウドファウンディング等の普及促進

(3)デジタル社会を先導する知の集積

デジタル社会を先導していくため、「新技術の開発力」や「データを利活用して課題解決する応用力」を備えた高度ICT人材を育成するとともに、高度ICT人材との連携により“組織の利活用力”を向上

①ICT開発力とデータ応用力の向上

・県立大学におけるデータサイエンティストの育成

・各分野の専門知識とデータ分析能力を兼ね備えた中核人材育成

②高度ICT人材との連携による利活用力向上

・次世代起業家の育成を促す“ITカリスマ”の集積

II 活力を高める ～パフォーマンスの向上～

(1)事業展開におけるクオリティの向上

モノやサービスの提供過程におけるクオリティの向上を図るため、AI・IoTによる生産活動の自動化やモノの付加価値向上を図るとともに、ヒトの行動を促すプロモーション活動のデジタル化を促進

①ものづくりの自動化・モノの価値向上

・ものづくり、農林水産業、建設業等におけるAI・IoT等の導入

②プロモーションのデジタル化

・SNSを活用した情報発信、観光VR体験の提供等ツーリズム促進

・動画配信、AR・VRの活用等視覚的・体感的な行政情報の発信

(2)サービス利用者のユーティリティ向上

サービス提供を受ける県民等のユーティリティの向上を図るため、データ利活用によりサービスレベルの向上を図るとともに、誰もが、どこでも高水準のサービスを楽しむことができる「サービス提供の均質化」を促進

①データ利活用によるサービスレベル向上

・リアルタイムデータの一元的提供による避難行動促進

・チャットボット活用による365日24時間相談対応、AIの事例分析による相談対応

②サービス提供の均質化

・遠隔医療、遠隔授業の普及

III デジタル社会を支える ～基盤の強化～

(1)デジタルデバイドの解消

年齢・性別、身体的・社会的・地理的条件に関わらず、誰もがICT・データの便益を享受するため、最低限必要なICT利活用力を育むとともに、通信基盤整備などの「データアクセシビリティの向上」を推進

①ライフステージに応じたICT利活用能力の向上

・学校教育、職業教育、生涯学習におけるICT利活用能力の向上

②データアクセシビリティの向上

・携帯電話不感地区解消・公衆無線LAN整備等の通信ネットワーク整備

・WEBアクセシビリティ向上

(2)安全安心なICT環境の整備

誰もが、安心して安全に、ICT・データを利活用するため、サイバー攻撃への防御やICTをめぐるトラブルの解消、情報モラルの向上など利活用環境を整備

①サイバーセキュリティの強化

・サイバー犯罪抑止対策の推進

②ICTをめぐるトラブル解消とモラルの向上

・青少年を取り巻くICT環境の整備、消費者トラブル対策

IV スマート自治体をめざす ～デジタル行政の推進～

(1)BPR～業務プロセスの見直し～の推進

限られた人的資源で質の高い行政運営を行うため、県民の利便性を向上する「行政手続のオンライン化」や、行政の生産性向上と職員のワークライフバランス実現を図る「ワークスタイルの変革」を推進

①行政手続のオンライン化

・本人確認・添付書類見直しによる電子申請の拡大、ICTによる県民意見・提案の集積

②ワークスタイルの変革

・AI・RPA等の活用による作業時間の削減

・テレビ会議システム導入による移動時間の削減

(2)情報システムの改革

行政が扱う多量データの迅速・安全・安定的な処理のため、システムの高機能化・強靱化・最適化を推進

①行政ネットワークシステムの高機能化

・兵庫情報ハイウェイの大容量化

②情報システムの強靱化・最適化

・ユーザビリティの向上、クラウド化の推進、災害時業務継続訓練の実施